

泉大津市新図書館の位置づけの検討

第2回泉大津市図書館整備検討委員会資料

平成30年10月12日

泉大津市

現行図書館の活用方針等の検討

駅前に新図書館が整備されることに伴い現在の図書館を次のように活用する。

1 駅前図書館蔵書のストックヤード

駅前図書館の立地ポテンシャルを生かし、様々な機能の導入を図るため、開架図書は16万冊程度を想定。(現在の開架図書は9.7万冊)

現図書館には副本、古い図書、児童書を中心に蔵書する。

2 移動図書館(BOOK MOBIL)の拠点

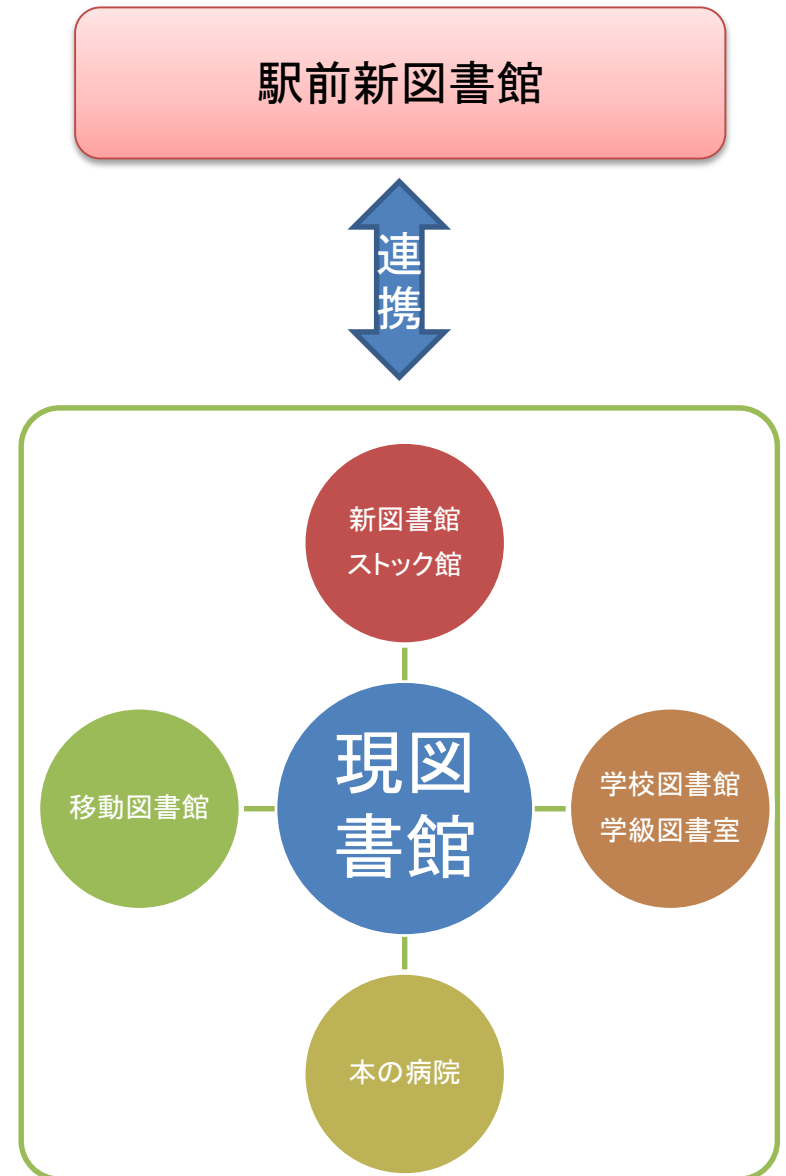
移動図書館の拠点機能とする。移動図書館用の本の収集と入れ替え機能とする。

3 学校図書館、学級図書室(教室)への貸し出し拠点

身近に読書に親しめるように小中学校の学校図書館や教室に本を貸し出すための蔵書拠点とする。

4 本の病院

傷んだ本の修理や清掃などを行うワーク室として活用する。



学校図書館との連携

■ 具体的な連携手法

1 団体貸出:学級図書室(小中教室の図書室化)

- ① 市内小中学校の学校図書館に図書館の蔵書を貸し出す。
主に調べ学習に利用する資料や授業に必要な資料の貸出となる。(中学校)
学校図書室の司書もしくは担当との連携が必要(選書、運搬は図書館)
- ② 身近に読書に親しめるように小中学校の教室に本を貸し出す。=学級文庫の充実
小学校向けには、市民ボランティアの育成が重要(選書、運搬は市民)

2 学校訪問

図書館司書が学校の求めに応じて出向き、読書活動推進に係わる事業を行う。
主に低学年にはおはなし会(絵本等の読み聞かせ)、中高学 年にはブックトーク(テーマに沿って本等の紹介をする)

3 図書館訪問

学校から図書館の見学や調べ学習の目的をもって図書館を訪れ、図書館の利用の仕方、館内見学ツアーや読み聞かせなどを行う。

4 職場体験学習

図書館を就業体験の場として、主として中学生を受け入れ、図書館の仕事を実際に体験してもらう。

5 推薦図書のお知らせ

小学生向けに、図書館で良書を選定して、1・2年生 3・4年生 5・6年生向けの3種類の推薦お知らせ冊子の発行

■体制・人材とデータ管理の連携

1 学校図書室の担当

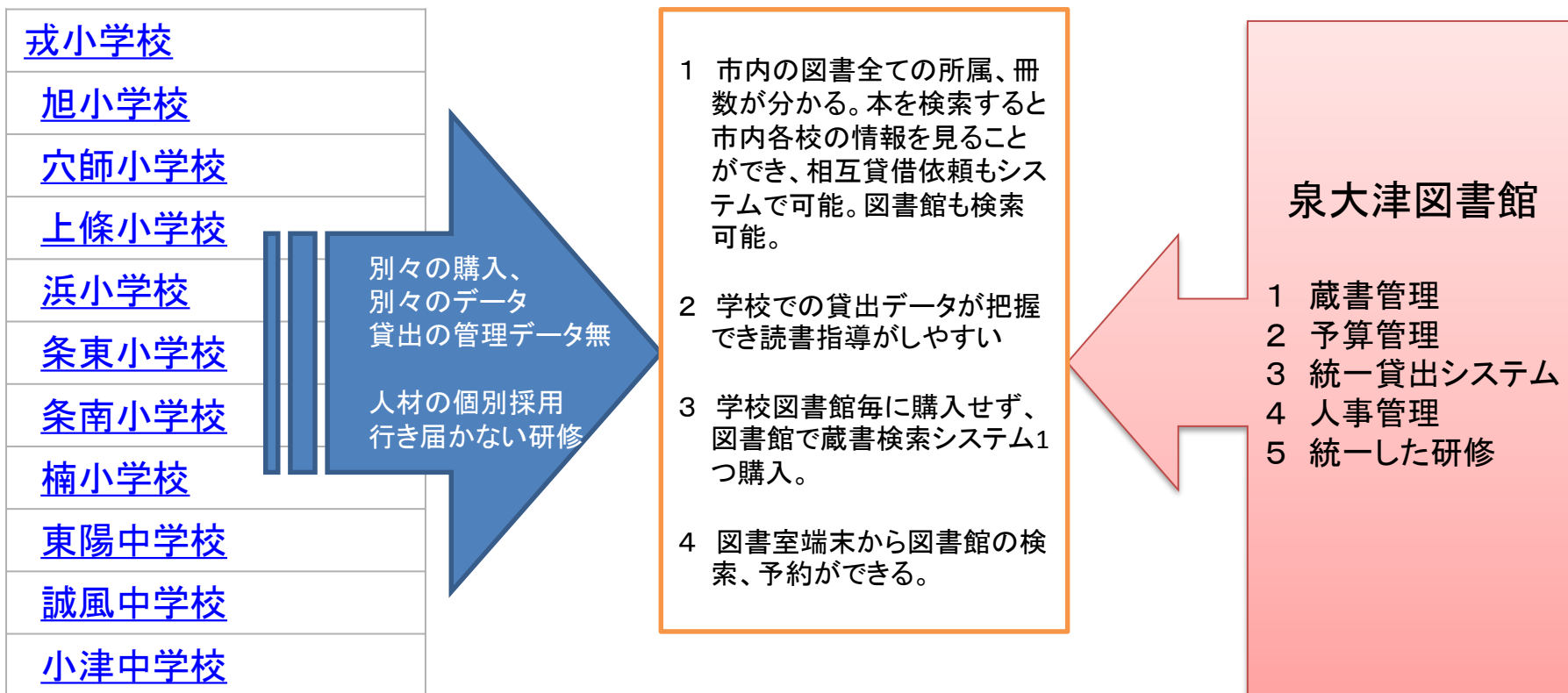
各学校の採用から図書館での採用として、人事管理、研修、ローテーション等を統合化する。それにより休暇や急な休みには、図書館員や臨時職員が柔軟に対応する。

2 本の購入

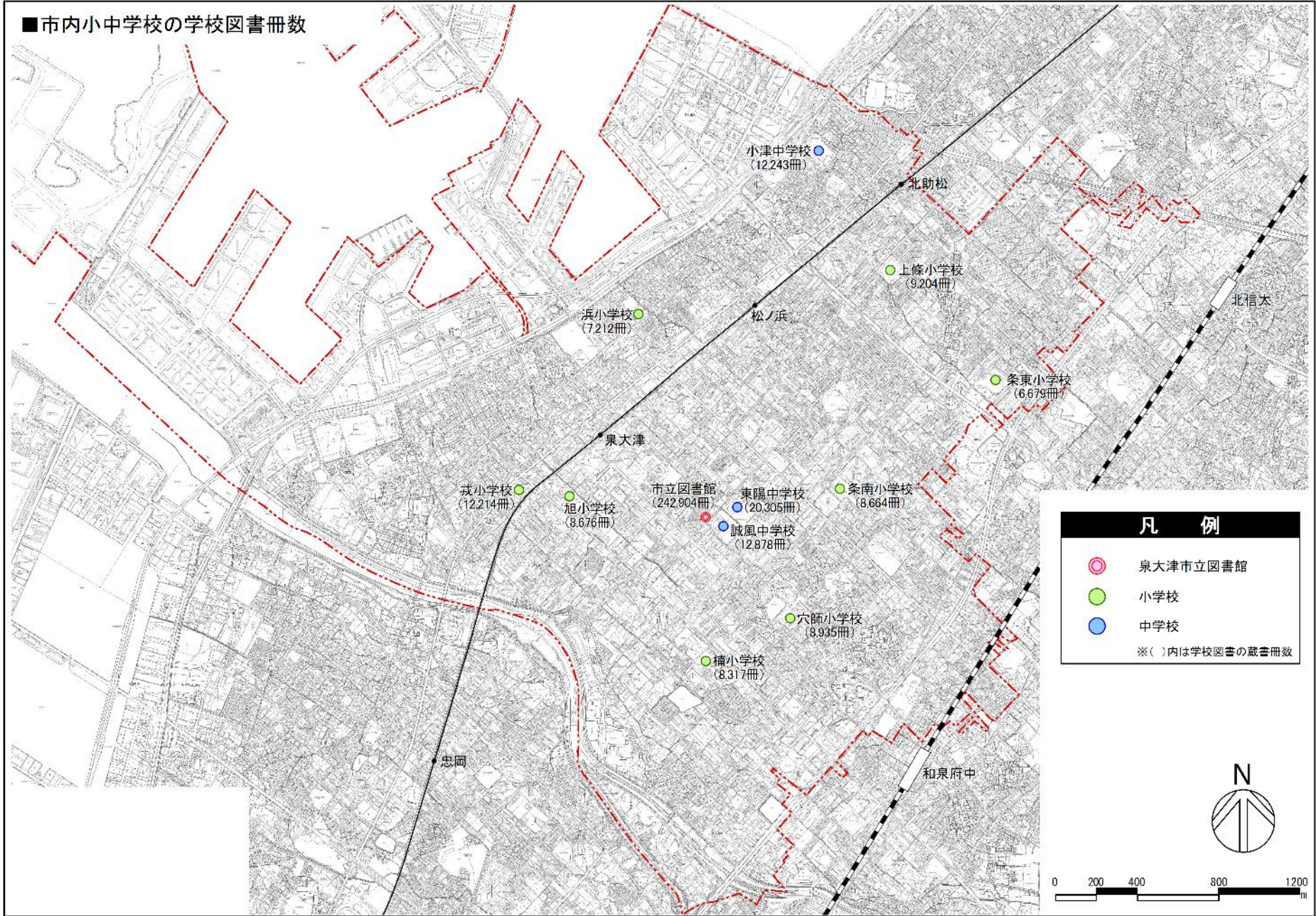
図書館で一括購入し、学校図書室と図書館とのデータ管理を一元化する。(学校図書室は、図書館の分館の位置づけ)

予算、システム、データ管理、貸出データ等が管理できる。(5年後)

実施図書館例：東京都国分寺市



■市内小中学校の学校図書冊数



凡 例

- 泉大津市立図書館
- 小学校
- 中学校

※()内は学校図書の蔵書冊数

